

平成24年度提案

提案件名	12-004 市内バス停及びJR駅に愛称名を付けよう！	提案者	グループ	区分	アイデア
------	-----------------------------	-----	------	----	------

現状及び問題点	内容	効果
<p>市民意識調査では、重要度が高いが満足度が低い施策のひとつに「公共交通」施策があります。</p> <p>利便性向上には利用促進が欠かせませんが、市民の意識、盛り上がり具合は好調とは言えないと感じます。この点を課題と捉え、継続して利用促進につなげていく工夫が必要と考えます。</p>	<p>・バス停・駅のある各地域の小学生に愛称名を提案してもらおう。（発想が柔軟で、愛称名への批判を受けにくい。地域のゆかりを調べる社会科の一環にもなるので4～6年生が適。中学生にイメージキャラクター等の絵を提案願う）</p> <p>・愛称名の看板設置費用は、各バス会社・JRに負担願う。</p> <p>CSRの視点（企業の社会的責任：市民や地域、社会の顕在的・潜在的な要請に応え、より高次の社会貢献や配慮を自主的に行う）から、利用客増、自社イメージアップにも繋がる事業として理解を求めらる。</p> <p>・おかやまアダプト事業の要素も絡めて、バス停・駅周辺の清掃活動を推奨する。</p> <p>・一定期間経過後に再募集を行うなど、一過性を防ぐことも検討（一部だけでも）。</p> <p>・スタートは試験的に数箇所から始めて、地域の盛り上げを誘う。（マスコミへの宣伝必須）</p> <p>・盛り上がりを見て第2弾策を実施する〔「バス停間」、「駅間」に愛称路線名を付けよう！〕。</p>	<p>・市民に各地域のシンボルとしてより一層親しみを持って利用してもらえることで、公共交通の利用促進に繋がる。（希望的観測なので数値不明です）</p> <p>・話題性で利用客（観光客）の増加が見込める。（希望的観測なので数値不明です）</p> <p>・市民・バス会社・JRによるコラボで絆を深めることに繋がる。</p> <p>（バス会社間、JRバス会社間の利用連続性（利便性）向上が利用促進に繋がる）</p> <p>【備考】</p> <p>・近隣では島根県三江線各駅（三江線神楽キャンペーンの期間中）に「恵比寿」「大蛇」などの神楽の演目名の愛称を付け、大型の神楽愛称駅名板を設置している例あり。</p> <p>・某バス会社への公金補助の現状を考えると、双方にメリットある事業として理解が得られるのではないのでしょうか。また、バス停を企業広告付にして資金調達し、バス停の修繕、維持管理費を捻出するきっかけにするなどのアドバイス（経営助言）の提案は許容されないものでしょうか。</p>



関係課意見
<p>【企画課企画政策係】</p> <p>現在、備前市では、備前市地域公共交通計画策定に向けての調査事業を実施しています。その中で公共交通の利便性向上へ向けての利用促進方針を検討することとしております。</p> <p>提案のあったバス停やJR駅への愛称をつけるアイデアについては、利用促進の観点から事業者に趣旨を説明し、計画の中に盛り込んでいくこと等が可能かどうかを事業者と共に検討してみたいと思います。</p>



職員提案審査委員会	点数	どちらでもない	
採用	3人 / 13人中	8人 / 13人中	否採用
<p>●愛称をつけたことによって利用客の増加が見込めるかどうかは疑問が残るが、地域参加型のまちづくりのひとつとしてはおもしろいと思う。他県や他市でも愛称をつけているところがあるようなので、問題点など情報を集めて検討していただきたい。</p> <p>●公共交通に親しみをもってもらい、市民の利用促進に繋げる方法の手段としてはよいアイデアだと思う。事業自体が調査段階とのことなので、利用促進案の一案として計画に盛り込む方向で検討を進めて具体化できればいいのではないかな。</p> <p>●利用者層や全国に対する知名度から市内バス停への適用は効果が期待できないが、JRに働きかけ利用促進キャンペーンとして赤穂線で行えば、話題性がでる可能性がある。JR三江線は失敗して廃線議論が出ているが、米子～境港間のJR境港線の妖怪駅のような成功例もある。市だけではなく商工会議所・交通機関・マスコミとのタイアップをすれば成功する可能性はあると考える。</p>	<p>●目のつけどころはいいが、効果があるかは疑問である。しかしながら、安価でイベント性もあるため、関係機関の協力が得られるなら試行してもいいと考える。</p> <p>●発想はいいと思うが、バスはともかくJRに駅の名前を変更してもらうことが可能か不明である。また、路線名ともなると市内だけに限らず、さらに困難ではないか。</p> <p>●備前市全体ではなく、各地域に合致した利用促進が図れる公共交通計画の策定が急務である。</p> <p>●市としての看板設置費用はいらないが、各バス会社、JRが負担してくれるかが問題である。</p> <p>●各路線等に愛称があれば、親しみが湧き、利用促進につながることも考えられる。</p> <p>●名前を変えただけで、利用促進に繋がるとは考えにくい。話題性はあると思う。</p> <p>公共交通機関を利用すると特典がつくなどのメリットやイベントなどがあれば、効果はあるかもしれない。</p> <p>●愛称でPR、利用促進、活性化を図ることはアイデアとしてはよくあることだが、市内においても試行する価値はあるかと思う。何をPRするのかなどテーマを絞るとわかりやすいと思う。</p>	<p>●一過性の改革になると思う。</p> <p>●愛称をつけたことにより、利用率が上昇するとは考えにくいと思う。また、県内の大型施設でさえ企業からのネーミングライツの依頼状況が低迷するなか、企業の協力も厳しいものと思う。他団体の例の記載があるが、当該団体も愛称の目的は公共交通の利用促進というより、観光目的であり、備前市においても実施するのであればそのような方向での検討をするべきと考える。</p>	



庁議	採否	否採用
<p>否採用とするが、企画課において実現の可能性をバス運行業者とJRに確認すること。</p>		

受賞
-